

- 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会の検討内容のひとつである、指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関して、有識者をはじめとする皆様からご意見・情報提供を頂くため、第2回目の生息環境検討部会を開催した。
- 生息環境検討部会は、越後平野における生物多様性を目指して、河川、潟池、水田、水路などの湿地、その周辺の里山、森林を含めた生態系ネットワーク形成を推進するため、指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関する検討を行うことを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和6年2月8日(木) 15:00～17:00

■議事

- (1) えちごエコネット推進協議会開催報告
- (2) 行動計画(2030)策定に向けた検討
- (3) 農業分野における具体的な取組
- (4) 福島潟周辺の自然環境活用の取組
- (5) その他

【行動計画策定に向けた検討について】

- ・潟や川などの水辺環境と水田環境のセットが生態系ネットワークの形成において重要である。今後の意見交換を通して、整理、議論し、仕組み作りを図れると良い。
- ・具体的な数値目標の設定は難しいという意見がある。今後も意見交換をしていくと良い。

【えちごエコネット生息環境における役割分担・関係性】

- ・それぞれの部局でビジョンが作られ、様々な事業が行われている。それら事業を共有し、既存の様々な事業と紐づけることにより、非常に有機的かつ効率良く進み、地域として統一感がある取組、戦略に結びつき、地域のブランディングに繋げることができるのでないか。関わりなく動くと齟齬が生じる可能性がある。互いが互いを紹介し、連携、協力し合うと、相互にメリットがあるとご理解いただきたい。
- ・指標種である鳥類以外にも、昆虫類や動植物、水辺生物等、複合的なネットワークを考えしていくことは非常に重要である。

【えちごエコネット福島潟周辺の生息環境に係る取組】

- ・早出川地区のワンドの再生のように具体的な事業が見えてくると、必要な取組のイメージがつきやすくなる。阿賀野川の蛇行している区間と、阿賀野川と早出川が合流する地点は、様々な地形ができる場所である。魚類をはじめとする様々な生き物にとって、福島潟と共に重要な場所になる。農地側の方で魚類が行き交うように連携を進めて頂きたい。
- ・モニタリング調査の成果も当部会の中で紹介してもらい、取組に対する効果を勉強していくと良い。阿賀野川河川事務所が先行している取組は、えちごエコネットの取組と結びついてきている。このような取組を今後も紹介していただきたい。国土交通省が河川整備事業を進め、ポテンシャルを提示できると、農地と連結した時、農地の方の水田生態系も非常に豊かになるから、足並み揃えていこうという、話の持て行き方ができる。

【今期のハクチョウ・オオヒシクイの動きについて】

- ・ハクチョウは通常は最大2万羽程度のところ、11月中～下旬にかけて2万5千羽が飛来しており、おそらく過去最大である。日本に飛来するオオヒシクイは約1万羽と言われており、新潟は多くて3千羽程度だが、今期はその多くが新潟、福島潟に過大集中しているようである。
- ・佐潟や福島潟等でそれぞれ増減があり、他の湖沼が減ると、他が増えるといった関係性が見てとれる。特定の1ヶ所が重要なのではなく、複数の連続性のあるねぐらが関係し合っていることが重要であると捉えてほしい。

【福島潟周辺の自然環境活用の取組ほか】

- ・付加価値をアピールできる場づくり、食をアピールするための調理師学校や料亭等との連携、トイレ等の活用しやすい環境づくりが重要である。
- ・潟フェス2024には、えちごエコネットの紹介パネルを展示する予定。そのほか大学、マルシェ、アウトドアや環境関係の店舗等、市民が集まる場でパネル展示を行うと良い。



生息環境検討部会の様子